トラック 36_1

ハムブのシンガニでは高德の人々が魔術の知識を競い合っていた。マレにはムゼ・ブスリという立派な占い師がいてパンダにも、もう一人いた。

植民地時代に入植者たちは村々に税を取り立てに行っていた。この税への対策を見つけるために、或る日有力者たちが集まった。そこでムゼ・ブスリは、殖民側の係官が負債を取り立てに村に来るのを防ぐ発出を行うと約束した。彼は未婚の村の若者たちに壺を用意させ、海に行って波が来るたびにその泡を7回集めるよう命じた。しかし老ブスリが何をしようとしていたのか誰もわからなかった。

翌日、アスルの礼拝の時に若者たちは壺をブスリに渡し、係官たちが次の月曜日に来ることを知らせた。彼はシンガニの村人に9時から正午の間に村の高台にあるモスクに集まるよう命じた。月曜になって係官たちが村に到着すると、その時老ブスリは礼拝を始め、村人たちに静かにするよう言った。彼が壺の中身を広場に注ぐと、広場は海に変わった。5人の係官たちは突然の水の出現に驚き、引き返した。その日以来、シンガニでは税は要求されなくなった。